

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方
 —「幼児が一つの目標を見出し、協力工夫していく活動」を考える—

東京学芸大学附属幼稚園 赤石 元子

1. 幼児期から小学校にかけて育てたい力

①自立と協同

②集中と信頼

- ・夢中になって遊ぶ、興味を追求する、自己目的をもつ
- ・安心する、つながる、仲間意識をもつ、力をあわせる、役に立つ

③子どもが自ら育とうとする力（心情、意欲、態度）

- ・幼稚園教育要領 「5領域」 15のねらい 54の内容

健康：健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力

人間関係：他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力
 環境：周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力

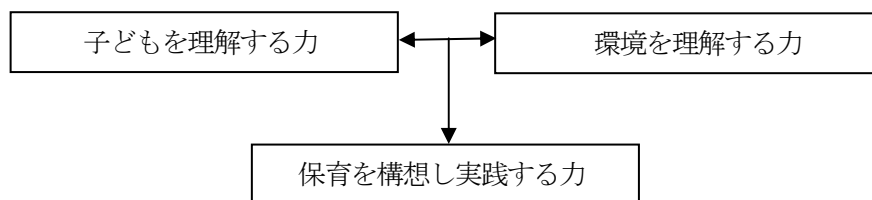
言葉：経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力

表現：感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力

2. 幼稚園から小学校への接続を考えるときに大切にしたいこと

① 3歳から5歳までの発達をとらえた幼稚園教育を実践すること

- ・自発的な活動としての「遊び」を中心とした保育
- ・「環境」を通して行う教育
 - 子ども一人一人の経験している内容をとらえること
 - 幼児一人一人の行動の理解と予測に基づいた、計画的な環境の構成すること



(参考：「遊びを中心とした保育」河邊貴子 萌文書林 2005 p174)

* 「各領域に示すねらいは、幼稚園の生活全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は、幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。」(幼稚園教育要領 第2章 ねらい及び内容)

② 幼稚園から小学校への接続を重視した双方の教育内容・方法を改善すること

- ・学びの内容（経験内容）を幼稚園と小学校の双方で学び合う。
- ・幼児と児童の交流を通して相互理解を深める。
- ・教師の研究、研修などを通して教育課程のつながり、教育内容・方法を検討する。

*幼稚園は子ども中心？ 小学校は教師中心？

・幼稚園は、小学校の教材研究に学ぶ。小学校は、幼稚園の幼児理解に学ぶ。

*幼稚園と小学校の違いが段差を生む？

・違いを前提として、接続期の指導の在り方を工夫することが大切。

例えば、幼稚園5歳児後半では、小学校の学習の基盤となる協同的な活動を重視した保育を構想する。小学校では、発達の段階を考慮して、教育活動全体を通して総合的な活動を柔軟に取り入れる。

3. 教育内容の理解と指導方法の工夫

① 協同的な活動とは

○中央教育審議会答申（平成17年）

「協同的な活動」

小学校入学前の主たる5歳児を対象として、幼児同士が教師の協力のもとで、共通の目的・挑戦的な課題など、一つの目標を作り出し、協同工夫していく活動

○幼稚園教育要領「人間関係」

内容（8）

友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりする。

内容の取り扱い（3）

幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるためには、自ら行動しようとする力を育てようとするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。

*他の領域においても、仲間とともに協同して遊ぶようになる過程を重視する記述が加わっている。

② 協同して遊ぶようになる過程

○リーフレット「協同して遊ぶことに関する指導の在り方」より

（全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会 平成22年3月）

第Ⅰ期	初めての集団生活の中で様々な環境と出会う時期・・・3歳児前半～4歳児前半
第Ⅱ期	遊びが充実し自己を発揮する時期・・・・・・・・・・3歳児後半～5歳児前半
第Ⅲ期	人間関係が深まり学びあいが可能となる時期・・・・・・・・5歳児後半

第Ⅲ期において、仲間と相談したり刺激し合ったりしながら関係を深め、自分の見方や考えを広げていく「協同する経験」が可能となるには、「協同する経験」が可能となるには、第Ⅰ期において、空間や時間を共有し、一人一人の幼児が安心して過ごせるようになる「共同する生活の経験」を、第Ⅱ期において、様々な人とのかかわりやつながる喜びを感じ、十分に自己を発揮して遊ぶ「協同の基盤となる経験」を、それぞれ積み重ねていくことが重要である。

このような体験の積み重ねが小学校以降の教育の基盤となる。

協同して遊ぶようになる過程

<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> 入園 → 修了 </div>			
発達 の 時期	第Ⅰ期 初めての集団生活の中で 様々な環境と出会う時期	第Ⅱ期 遊びが充実し自己を発揮す る時期	第Ⅲ期 人間関係が深まり学び合い が可能となる時期
協 同 し て 遊 ぶ よ う に な る 過 程 ・ 経 験 内 容	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 60%;">共同する生活の経験</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 60%;">協同の基盤となる経験</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 60%;">協同する経験</div> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同じ場で見たり触れたり行為を模倣したりする ○ 場を共有し、つながり合う気分を味わう ○ イメージの世界に浸り、感情を共有する ○ 友達存在を、好意をもって受け入れようとする ○ 友達のしていることを感じながら、個々の遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 場やものを共有し、友達とかかわって遊ぶ楽しさを知る ○ イメージや考えを伝え合い、表現する楽しさを味わう ○ 葛藤を乗り越え、友達と一緒に遊びをつくりだす ○ 友達と刺激し合いながら、自分の世界を広げる ○ 体験を深め、学級の友達と遊びの楽しさを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目的を共有し、友達と相談しながら遊びを進める ○ 新しいアイデアや遊びのルールを生み出す ○ <u>グループや学級の中で、役割を意識して取り組む</u> ○ <u>友達のよさや持ち味を感じながら、目的を実現し達成感を味わう</u> ○ 様々な人とかかわりの中で刺激を受けながら、自分の見方や考えを広げる

○ 事例集「協同して遊ぶことに関する指導の在り方」より

(文部科学省委託研究 全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会 平成22年3月)

仲間意識が育ち、幼児同士の関係が深まっていく第Ⅲ期には、「幼児同士が教師の協力のもとで、共通の目的・挑戦的な課題など、一つの目標を作り出し、協力工夫していく活動」としての「協同的な活動」が可能となってくる。協同的な活動を通して、友達とかかわり合って遊ぶ楽しさを実感し、学級の友達と学び合い育い合う関係が深まっていく。協同的な経験を重ねることによって、友達とつながり合う学びの共同体としての学級集団が形成され、小学校以降の生活や学習の基盤が培われていく。

したがって、5歳児後半においては、幼児同士がかかわり合って活動する場面を多様に経験できるようにしていくことが重要である。幼児の発達をとらえ、幼児同士が共通の目的や挑戦的な課題を自分のこととしてとらえることができるように、幼児と教師との双方向性のある保育を構想することが大切である。

<事例1-1> 遊びをつなげ、みんなで一つの物語をつくる

(5歳児11月)

ほし組では、探検ごっこ、人魚のダンス、お化け屋敷ごっこ、電車ごっこ、折り紙による四つ葉のクローバー作りなどの遊びが展開されている。

子ども会が近づいたある日、ほし組の子どもたちと教師は、昨年の子ども会を思い出しながら、どんな子ども会にするか相談した。教師は大きな海図を作り、そこに幼稚園、貝殻島、お化け島、中央線、幸せ島などを貼っていった。興味津々で見ていた子どもたちは、「幼稚園にはリュウがいる」「人魚の島でしょ」「お化け島にはお化け屋敷があるんだよね」「ぼくたちの中央線だ」など、自分たちの遊びと結び付けてとらえ、物語ができていく。物語は、幼児が楽しんでいる遊びが登場するように、幼児と教師で相談しながらつくっていった。そして、「ほし組探検隊、四つ葉のクローバーを探しに幸せ島に行く」というストーリーができ、子どもたちは、つき組や保護者に見せたいという共通の目的をもつようになった。

探検ごっこをしていた幼児たちは、探検隊の仲間になり、以前にダンボールや巧技台を使って作った「エルマーのぼうけん」のリュウを組み直し始めた。人魚になって遊んでいる踊りの大好きな幼児たちは、「ここ、貝殻島にしよう」と、5人そろって新しい踊りを考えていた。お化け島の幼児たちは、一人一人がお化けの衣装を工夫したり、「骸骨」の絵本をみて骨の成り立ちを調べたりして、仲間と一緒に歌の振り付けを考えることになった。電車の好きな幼児は、中央線の運転手役になった。ダンボールで中央線の車両を作るとJRマークを付けたり、帽子やカバンを本物らしく工夫して作り、社内アナウンスの練習に励んだりしていた。

○ 目的が共有しやすいよう、環境を工夫する。

幼児たちは、教師の提案のもと、子ども会について学級全体で相談し、みんなで一緒に物語をつくるという活動をしている。教師は、子ども会への意欲と見通しをもたせたいと考え、子どもたちが楽しんでいる遊びを活かすことによって次の活動への興味や関心を高めている。そして、海図を作って貼り、可視化することによってストーリーを共有しやすいように環境を工夫している。

こうした幼児の興味や関心を活かしたものや場の構成、物語をつくるという活動の提案など、幼児と教師の双方向性を重視した保育を構想することにより、幼児は「子ども会ではほし組の劇を見せよう」という目的を明確にもつようになっていく。共通の目的をもつとそれに向かって役割をもって取り組むようになっていく。そして、グループごとに、友達と一緒に必要なものを作ったり、数人で踊りの動きを考えたりするようになり、仲間と共に、一人では得られない遊びの面白さや、友達と一緒にだからこそ可能となるやりとりの楽しさを味わう様子が見られる。これまで経験してきたことが積み重なってつながり、それぞれの活動が互いに関連し合っていて、新しい活動が生み出されている。

<事例 1-2> 試行錯誤しながら友達と一緒に作る

(5歳児 11月)

子ども会に向けて、探検隊の幼児たちは、自分たちで作ったリュウを、遊戯室に移動させ、組み立てている。リュウの体は巧技台とビールケースを使って組み立て、頭部はダンボールを重ねて作っている。リュウの羽は、支柱を組み立て金色のビニールを貼って作ったもので、かなり苦労して作っていた。

この日は、胴に2枚の羽をつける作業をすることになっていた。T児がリュウの胴の上に登って両手で羽を支え、R児はドライバーを使って東部に羽をつけている。うまくいかないと、教師が「こうやって押さえながら使うんだぞ」と、手もとを見せてモデルとなる。M児と交代しながら、何とか羽をつけることができた。

リュウの羽が動くように考えたのは、H児である。以前に遊びの中で作ったことのあるセロハンテープの芯を使った「くるくるシステム」が出来ないか、やってみることになった。教師は、これはどうかと丈夫なリールを提案し、リールとひもを使った「くるくるシステム」づくりに、幼児は試行錯誤して取り組んでいた。「ちょっとこっち持ってて」「あっ、そこそこ、ひっぱって」「こっちは大丈夫だ」など伝え合い、教師の協力のもとで、力と知恵を出し合って取り組んでいた。くるくるシステムが出来ると、「行くよー」「いいよー」と掛け声をかけ合い、試運転。真剣な表情でやや近況した雰囲気。「動いた！」静かな喜びの瞬間だった。

- 友達とのかかわりが生まれやすい場所・素材・遊具等を提案し、幼児が挑戦していけるような状況をつくる。

この事例にあるリュウを組み立てる活動は、これまでに別の場所（中央テラス）で経験している。子どもたちは、子ども会のためにリュウを遊戯室に移動させ、他の幼児の活動も視野に入れながら、リュウの羽を動くように作ろうと、目的と見通しをもって取り組んでいる。友達と一緒に作業をする中で、「いくよ」「いいよ」など伝え合う言葉もよく聞かれるようになり、言葉による伝え合いができるようになっている。

ここでは、協同的な活動を可能にしているものや場所という環境に注目したい。一人では組み立てられない巧技台や大きなダンボールが使われ、これらの大型遊具や材料が媒介となって幼児同士がつながっている。子ども会を見通して、幼児が遊びの場を移動させたことにも意味がある。幼児が友達とかわりあって活動する楽しさを経験できるようにするためには、教師は環境のもつ潜在的な可能性に目を向け、友達とのかかわりがうまれやすいものや場所、時間などを提案的に取り入れ、幼児同士がかかわりが深まっていくように援助することが重要である。ドライバーや留め金、板など、幼児にとっては多少の困難を伴うが、目的達成のために必要な道具を、これまでの経験と発達をとらえた上で提案すること、そのことにより幼児自身が挑戦的な課題に向かって、自分の力を発揮し、友達と一緒にやり遂げていく達成感を味わえるような状況をつくる援助が大切である。

<事例 1-3> 教え合い、ほほえみ合う

(5歳児 11月)

R児は、折り紙でハートを折ろうとするが、うまくいかない。涙ぐみ、あくびをしてごまかしながら涙をぬぐう。教師はさりげなく、R児の隣に座る。机を囲んでいるT児に折り方を教える。R児は、T児に教える教師の手もとを見ながら、ハートを折っていく。昼食後、R児は、作ったハートを4つつないで、四つ葉のクローバーを作ろうとするがうまくいかない。それを見ていたA児は、R児の隣に座り、自分も四つ葉のクローバーを作り始める。A児は、ときどき、R児が作る様子を見て、待ったり、「ここは、こうする」と自分の手もとを見せながら教えたりしている。二人で折り紙を回しながら重ねて見る。四つ葉ができると、二人は顔を見合わせてほほえみ合う。

○ 一人一人のよさや持ち味を認めあう関係を育て、幼児同士をつなぐ

幼児たちは、これまで学級の友達と一緒に生活したり遊んだりしてきたことから、互いに友達のよさや持ち味をよく知っている。友達と共通の目的をもつと、自分の得意でないこともやってみようとするようになる。グループや学級全体で目的を共有すると、それを自分のこととして受け止め、友達とかかわりながら自分の世界を広げていく。

これまで折り紙はあまり得意でなかったR児は、「四つ葉を作る」という学級のみんなの目標を自分のこととして受け止め、作ってみようとするようになる。A児は、自分とはペースの異なるR児をよく見て、待ったり、教えたり、一緒にやってみたりする。二人の間に温かい関係が育っている。それぞれのよさや持ち味を認め、支え合う関係を育む学級の雰囲気、R児を支え、A児との関係を生んでいる。一人一人の持ち味を理解し、さりげなく幼児同士をつなぐ教師の配慮をみることができる。

<事例1-4> 仲間と相談する

(5歳児12月)

探検隊の幼児たちが頭を突き合わせて相談をしている。K児が「ほし組探検隊だけのマークを作ろうよ」と仲間を集めて提案している。K児「あのさ、銀色の厚紙で星のマークを作って、マジックで塗るの。それを望遠鏡とか懐中電灯に貼って・・・いい？賛成？」と、仲間に同意を求める。K児の提案を真剣に聞き、うなづく幼児たち。K児はT時に「聞いてる？分かった？」と念を押す。

相談が終わると、幼児たちは製作コーナーに駆け寄る。厚紙で「ほし組探検隊だけの」星のマークを作り、それを探検グッズに貼ると、身に付けて外に出ていく。R児は、K児に「先に行って。作ったら行く」とハキハキした声で答え、手もとの星のマークを完成させると望遠鏡に付け、走って外に出ていく。

○ 幼児の興味や関心を生かし、見通しをもって保育を構想する

自分たちの遊びが、学級全体の劇の中に位置づいたことによって、幼児は、探検ごっこや劇遊びに新たな面白さを見出している。幼児たちは、他のグループの友達のしていることをよく見るようになり、互いに刺激を受けて、また新たなイメージや方法を考え出し、自分たちの遊びに取り入れている。自分の考えたことを、仲間に伝え、相手の意見も聞こうと相談し、仲間意識が高まっている。

R児は、これまで描いたり作ったりすることに苦手意識をもっていたが、友達と一緒に遊ぶ楽しさを知ることによって、やってみようとするようになり、自信をもって行動するようになっている。

教師は、幼児同士が集まって相談している様子や、それぞれの幼児が互いに相手のよさや持ち味を感じながら自分らしく行動する姿を見守っている。幼児の興味や関心を生かし、見通しをもって保育を構想することが重要である。

4、小学校への接続を意識した、幼稚園における指導方法の改善

- ・心を動かす体験を多様に重ねていく保育の構想
- ・幼児が自己目的を見出していけるような幼児と教師の双方向性を大切にした保育
- ・友達と目的が共有されていく過程を重視
- ・個と集団のダイナミックな関係性の生成
- ・専門家との連携・協働
- ・挑戦する環境の提案（魅力的な教材との出会い）

<事例2> オペラ「どんぐりと山猫」が子ども会「どんぐりと山猫」になるまで
(平成19年7月～12月)

<事例3> 絵本「たいようオルガン」読み聞かせから生まれた表現する喜び
(平成20年10月～平成22年3月)



描く
言葉
イメージ
ストーリー



<事例4> 「さるかに」協同するところと体

(平成21年12月～平成22年3月)



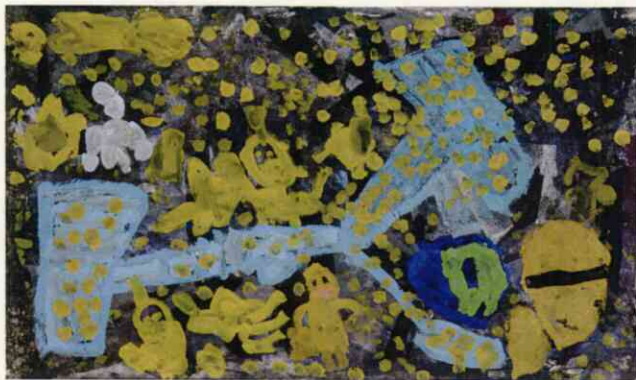


<p>ぞうバスはしる うけのくに</p> <p>かみあき <input type="checkbox"/> かわはし <input type="checkbox"/></p> <p>たこ <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>くらげ <input type="checkbox"/></p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のりおたり ぞうバスはしる</p>	<p>ぞうバスはしる そらのくに</p> <p>うさぎ <input type="checkbox"/> くらげ <input type="checkbox"/></p> <p>くま <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>けい <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のりおたり ぞうバスはしる</p>	<p>ぞうバスはしる うちのくに</p> <p>かみあき <input type="checkbox"/> かわはし <input type="checkbox"/></p> <p>けい <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>けい <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のりおたり ぞうバスはしる</p>
<p>ぞうバスはしる つらのくに</p> <p>かみあき <input type="checkbox"/> かわはし <input type="checkbox"/></p> <p>くらげ <input type="checkbox"/> くらげ <input type="checkbox"/></p> <p>うさぎ <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のりおたり ぞうバスはしる</p>	<p>ぞうバスはしる けい <input type="checkbox"/> のくに</p> <p>くらげ <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>うさぎ <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>けい <input type="checkbox"/></p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のりおたり ぞうバスはしる</p>	<p>ぞうバスはしる けい <input type="checkbox"/> のくに</p> <p>うさぎ <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>けい <input type="checkbox"/> けい <input type="checkbox"/></p> <p>けい <input type="checkbox"/></p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のりおたり ぞうバスはしる</p>





<p>ぞうバスはしる そらづくに</p> <p>とりいる にとある</p> <p>くちまはくはく ぐちまはくはく</p> <p>ひこきとが たいまある</p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のたりおたり ぞうバス はしる</p>	<p>ぞうバスはしる つちづくに</p> <p>ちーりんがいてる ちぐらいる</p> <p>かかくしててる しみり はをい</p> <p>いりてくる</p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のたりおたり ぞうバス はしる</p>	<p>ぞうバスはしる かわづくに</p> <p>へびがいてる トラごまにでてる</p> <p>うしろのぼる たいま</p> <p>かかくはくはく たいまはくはく</p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のたりおたり ぞうバス はしる</p>
<p>ぞうバスはしる かわづくに</p> <p>UFO みてる ちんちんちんちん</p> <p>ほし ちんちんちんちん</p> <p>うしろのぼる</p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のたりおたり ぞうバス はしる</p>	<p>ぞうバスはしる うみづくに</p> <p>くちまはくはく ちんちんちんちん</p> <p>かかくはくはくある ちんちんちんちん</p> <p>ちんちんちんちん</p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のたりおたり ぞうバス はしる</p>	<p>ぞうバスはしる こおりづくに</p> <p>ペンギン いる しろくま いる</p> <p>こおりはくはくはく かくらある</p> <p>ちんちんちんちん</p> <p>のりたひとてをあげて どうぞ どうぞ のたりおたり ぞうバス はしる</p>



オペラ
「どんぐりと山猫」
が
子ども会での
「どんぐりと山猫」
になるまで

7/19



私たちは「大きい」グループ

何だか先生楽しそう
何をしているのかな？



とがったのが偉いんだよ
かいいえ違います丸いのが偉いんです
お押しっこをして決めるんだよ

こっちは「押しっこ強い」グループ

このオペラのどんぐりのことだったんだね！

夏休み

10月



こっちの方が大きいよ
ちがうよこっちの方がえらいんだよ

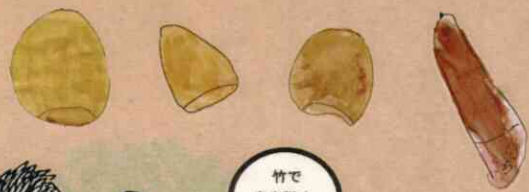


7月のオペラのことを覚えて
いるんだな……

オペラの中のどんぐりの歌のフレーズに親しむ
・集まったときに歌う
・降園時に歌う 等



もっとどんぐりに親しめないかしら……



竹で音楽隊をやろうよ！

竹の楽器は遊戯室ではいい音が出ないね。どうしよう。



思い切り動いたり踊ったりして、劇ごっこを楽しんでいるね。次はどうなるかしら……

僕、こんなどんぐり
私は、こんなどんぐり



11月

劇ごっこに、日頃楽しんでいる遊びを取り入れられないかな。



楽しんでいる仲間の遊びが生かされているね。

仲間同士で動きを考え出しているわ。

でも、物語のイメージに遊びの動きが入るのはストーリーが不自然だね。



私たちこんなに大きいどんぐり

僕たちこんなに背の高いどんぐり



どんぐりが身近なものになってきたな

しいのみてっどんな味？



どんぐり染めどんな色になるかな？



かかしにどんぐりを使って
みたら？



色んなどんぐりが集まってきたわ



私の一番好きなどんぐり！



竹の楽器も枕木を使うといい音が出るようになったわね。

山猫（教師）の裁判長とのやり取りにすることで、自然なストーリーになったわね。

子ども会



12月



幼稚園全体がどんぐり山の雰囲気になってきたわね。

毎日の生活が生かされているわ。

